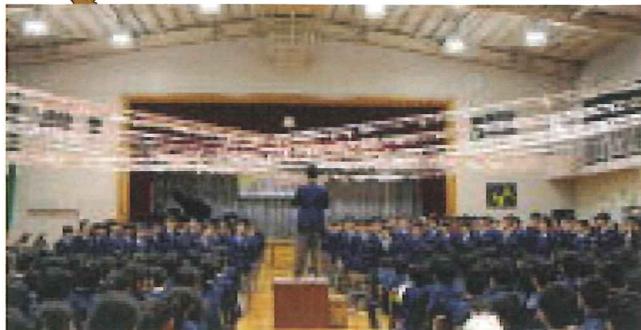




平成29年3月10日  
特別号「特集 卒業式」  
千葉市立生浜中学校



平成二八年度

## 第七〇回卒業証書授与式

**答辞** 卒業生代表 五十嵐 加奈

厳しい寒さが和らぎ、校庭を吹き抜ける風が春の訪れを伝えてくれます。思い出の詰まったこの生浜中学校を今日、私たちは卒業します。この三年間で、いろいろなことを経験しました。

新しい制服を何度も着ては脱ぎ、中学校生活を楽しみにして迎えた入学式。他の小学校からくる人たちと、友達になれるのか、授業はついていくのか、部活動は何にしようかなど、たくさんの不安の中で中学校生活が始まりました。しかし、入学してすぐに、声をかけてくれた友達がいて、心が明るくなりました。

クラスで団結する喜びを感じた自然教室。みんなと協力してご飯を作ったことが思い出に残りました。薪で火加減を調節することがすごく大変でした。いつも当たり前のように食事の用意をしてくれる家族に感謝とともに、苦労して作ったご飯を何杯もお代わりして食べる友が微笑ましく見えました。キャンプファイヤーでは、絆、友情、努力、希望、感謝、笑顔の炎が見つめる中、クラスごとに人間知恵の輪でつないだ手を放さないように気持ちもつながりました。

達成感あふれた体育祭。創立七十周年をお祝いして、三年女子全員で七十の文字を作りスタートしたマスゲームは、忘れられないものになりました。ダンスリーダーが指示を出し、少ない練習にも関わらず、一・二年生が必死に覚えてくれ、本番では全校女子の華やかさを表現することができました。

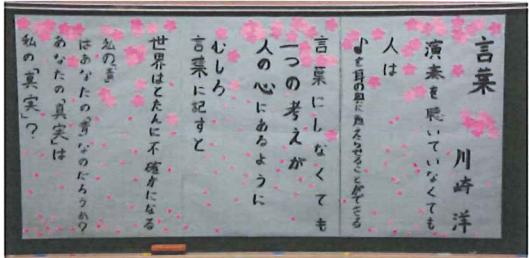
男子の勇姿が見られた組体操。先生方の完全な補助のもと、二つの大きなピラミッドを作ることがで

き、その場の空気が一瞬止まったように感じました。

みんなで話し合って完成させた応援合戦。応援団の考えた歌や踊りを一・二年生も一緒になって練習し、学年を超えた紅白のチームワークに感動の渦が舞い上がりました。クラス対抗リレーや長縄跳びへの気合いも高まり、自分たちの作戦が成功し、勝てた喜びと、少しの差で負けた悔しさの違いはありますが、クラスみんなで、力を合わせたことで心も一つになれました。

友達の意外な一面に心打たれた修学旅行。上高地の神秘的

な景色に圧倒されました。また、班別活動では、地図言葉に記すと



言葉川崎洋人は演来を聴いていなくとも春を育むたぬきそよぐこと度てざる

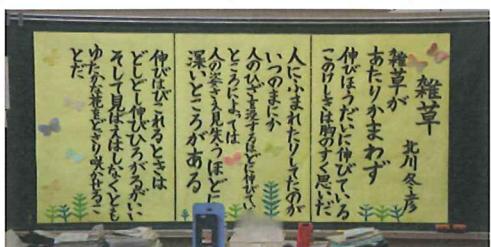
世界はちゃんと不確かななる人の心にあるよう言葉にしづくても一つの考え方をもむしろ言葉に記すと

三年間、全力を注いできた部活動。先輩や後輩との何気ない会話は厳しい練習の中での一つの喜びでした。最後の大会である総合体育大会や、コンクールでは、緊張しながらもそれまでがんばってきた技術や気持ちを発揮することができました。その時一・二年生の応援してくれた声が今でも心に響いています。

この二年間のクラスの団結を確かめあった合唱コンクール。本番で最高の歌を届けられるようにたくさん練習しました。今までの先輩方のように歌いたい、賞を取りたいという思いを歌に込め、ステージに立つことができました。歌いながら心が震え、今まで練習してきてよかったです、このクラスの一員でよかったです。

今年は創立七十周年の記念の年で、生徒会は式典の企画に加わり、生浜中のマスコットキャラクターを作成しました。式典では、今までの歴史を振り返り、たくさんの方が生浜中のことを考え、卒業生であることを大切に思い続けていることがわかり、これからもこの伝統を守っていこうと決心しました。

夏ごろから、私たちちは、





進路のことを本格的に考え始め、将来、自分はどんな道に進みたいのか真剣に考えました。志望校がなかなか決まらず、不安になるときもありましたが、そんなとき、いつも相談にのってくださったのは先生方です。また、自分で勉強してもわからないところを休み時間や放課後、先生方のところに質問に行くと快く教えてください、問題が解けたことがうれしくなり、次の勉強の励みになりました。

先生方の、アドバイスのおかげで、私たちは、三年間のたくさんの行事を楽しむことができました。一緒に笑い、話し合い、時にはけんかもした友達。みんながいてくれたから、毎日楽しく過ごすことができました。思い通りにならずに、落ち込んでいたときでも、優しく声をかけてくれ、そばにいてくれたあなたの存在は、心の支えでした。今まで本当にありがとうございました。

そしてお父さん、お母さん。何度も反抗して心配や迷惑をかけました。私たちのために言ってくれた言葉だけはわかつても素直になれず、言い返してしまい、後悔することが何度もありました。それでも、いつも変わらない笑顔でいてくれてうれしかったです。私たちがこれからも夢に向かって努力する姿を見守ってください。

三年間という月日はあつという間でしたが、たくさんの思い出のつまった充実した三年間でした。それは、いろいろな方が支えてくださったお陰です。

在校生のみなさん、専門委員会や部活動、さまざまな行事と一緒に活動をしてきましたね。全て成功したのは、みなさんが、協力してくれたからだと思います。これからは、みなさんがこの生浜中学校の伝統を受け継いでいくことになります。「苦あれば楽あり」と言われるように、必ずみなさんの努力は報われます。

思い出の詰まった生浜中学校を卒業することはとてもさみしいです。しかし、私たちは今、自分の夢に向かって羽ばたきます。今までお世話になった地域の方々、友達、先生、お父さんお母さん、本当にありがとうございました。

私たちの愛する生浜中学校、さようなら。

送辞

在校生代表 樋口亜美奈

春一番が長く寒かった冬に終わりを告げるととも

に、別れの季節が訪れました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

三年前、先輩方がこの生浜中に入学した時、校庭の桜の木は花を枝いっぱいにつけ、新入生を迎えていたのを覚えていますか。校庭の桜の木は皆さんと一緒に、この生浜中で育ってきました。校庭の桜の木は楽しかったことや悔しかったこと、また頑張ったことを今日まで見守ってきました。

強い日差しの中、汗だくになりながら頑張った体育



祭。中でも男子の組体操は迫力があり、一つ一つの動きがすばらしく、頂きに立った団長はもちろんですが、土台としてお二人を支えた先輩方の姿があつたからこそ、完成したのだと思います。組体操は。一人欠けるだけでバランスを崩し成り立ちません。先輩方の勇姿を見て、仲間と協力することで大きな力になることを学びました。

女子のマスゲームは、ダンスリーダーの皆さん、体育祭までに何ヶ月もかけて作り上げました。完成させようと頑張っている姿を見て、私たち在校生も先輩方と一緒に生浜中伝統のマスゲームを作り上げたいと思いました。

一つのことをあきらめず最後までやりとげる先輩の姿から、私たちは何事もあきらめず挑戦することが大切なのだと思います。

生中生の歌声が千葉市民会館の中に響き渡った合唱コンクール。三年生の歌声は美しく、会場にいる在校生の心の中に響き渡り、感動しました。正直、私は、賞を取れず悔しくて結果発表の時に、温かい拍手を送れませんでした。ですが、三年生は賞を取っても取らなくても賞を取ったクラスに温かい拍手をしているのを見て、どうしてそんなに温かい拍手が送れるのだろうと思いました。それは、先輩方の日々の練習の取り組みや、周りのクラスの努力を認めることによるものだと思いました。

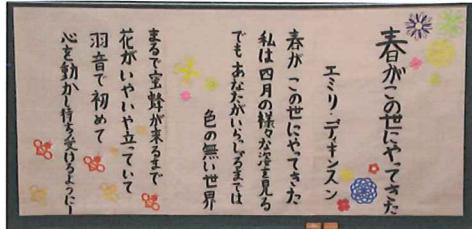
私にとって、先輩との思い出深いものは、部活動で



す。真夏の太陽の下、冬の寒空の中でも、仲間と共に頑張ってきました。何もわからない私たちに優し

く指導して下さったことを、今でも深く感謝しております。

時には、先輩方の指導に厳しさを感じる時もありました。今、二年生が部活動を引っ張っていく立場になり、その中で、言いたくないことも言わなくてはいけないときがあります。それは、これから私たちが引退したとき、下級生に引き継いで欲しいという思いがあります。先輩方もこのような思いで指導して下さったこと思うと、今、その厳しさは、私たちに対する本当の優しさ



だったのだと気付くことができました。あるときは優しく相談に乗って下さり、ある時は影となって私たちを支えて下さり、本当にありがとうございました。先輩方が引退された今、先輩方から学んだことをこれから活動に生かして生きたいと思います。そして、これから入ってくる新入生にも私たちがしていただいたように優しく指導ができるよう受け継いで生きたいと思います。

どんな時も私たち支えて下さった卒業生の皆さんのように優しく、頼もしく最後まであきらめず頑張れる生徒になれるよう精進していきたいと思います。これからも生浜中の伝統を受け継いでいきたいと思います。そして今、皆さんから受け取ったバトンを次に続く後輩へと笑顔で渡すことができるよう努力します。

これら先、楽しいことばかりではないかもしれません。つらくて、苦しくてもこれまでの中学校生活を振り返り、努力を惜しまないで下さい。そして、生浜中学校で三年間学んだことを生かし、目の前の壁を乗り越えていって下さい。

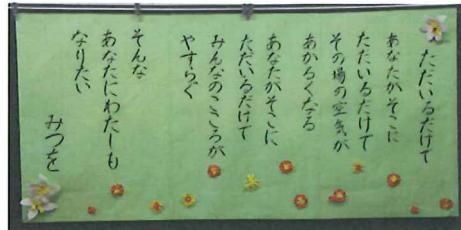
最後に皆さまますますのご活躍在校生一同お祈り申し上げて送辞とさせていただきます。

## 第七〇回卒業証書授与式 式辞

校長 南川 昭弘

穏やかな早春の良き日に、千葉市教育委員会、武大介様はじめ、学区小学校・近隣高等学校の校長先生方や地域ご来賓の皆様のご臨席と、保護者の皆様のご列席をいただき、第七十回生浜中学校卒業証書授与式を、このように盛大に挙行できること、心より厚く御礼申し上げます。

さて、百九十二名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう



ございます。今、一人ひとりが手にしている卒業証書は、中学校の全教育課程を修了したこと



と、同時に九年間の義務教育を修了し、社会人としての、第一の基礎を築いたことを証明するものです。

振り返れば、今年度は本校創立七十周年という記念する年がありました。皆さん是最上級生として、本校の歴史と伝統を意識しながら更なる発展を目指して、学習や学校行事に、積極的に取り組みました。体育祭、修学旅行、合唱コンクール、周年事業などの行事で、また生徒会や学級活動、部活動などで、友情を育み、知識を身につけ、心と体を鍛えました。皆さんのこうした、ひとつひとつの着実な歩みが、本校のまた新たな伝統になっていきます。生浜中学校で学んだことを活かし、それぞれが抱く、志に向かって努力していただきたいと思います。その皆さん道が栄光に満ちたものでありますよう祈っています。皆さんの門出にあたり、私の願いを二つお話しいたします。

まず初めに話したいことは、皆さんの後ろには、皆さんの成長を常に温かく見守ってくれた家族や先生方、友達、そして地域の方々がいたということを忘れないでください。人はみんな、自分の周りにいる人たちによって育てられていくものです。決して、自分ひとりで成長したなど思わないで、感謝の心を忘れぬ人となって下さい。今日帰ったら、皆さんをこれまで、たくさんの愛情をもって育ててくれたご家族に、卒業証書を見せ、素直に感謝の気持ちを伝えましょう。

次に何事も「本気です」と言うことです。本気で行うには自分のなりたい姿が描かれていないなりません。なりたい自分に近づくためにはどうすればできるのかなれるのか自分で考え実践しなければなりません。容易くできるものもあるでしょう、かなりの努力を必要とするものもあるでしょう。諦めたり、人に頼っていては何事もなし得ません。

本気ですから、大抵のことはできる

本気ですから、何でもおもしろい

本気でしているから、誰かが助けてくれる

本気で何でも打ち込んでください。

今年は19年ぶりに日本人横綱が誕生しました。稀勢の里関です。稀勢の里関は中学校の卒業文集に「天才は生まれつきです。もうなれ



ません。努力です。努力で天才に勝ちます。」と書いています。その通りに厳しい稽古を積み重ねて、こつこつと力を付けてきました。大関になってからは何度も優勝に迫りながらも他に阻まれ、大一番に弱いとのイメージが強くなりましたが、決してくじけませんでした。そしてついに初場所で優勝を決め、十九年ぶりの日本人横綱の誕生となりました。

実力の差は努力の差といわれます。自分の夢や希望にむかって諦めずこつこつと努力を積み重ねることが大切です。それぞれの道で、自分らしい素晴らしい花を咲かせてください。



終わりに、保護者の皆様に一言お祝い申し上げます。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。大切なお子様をお預かりし、教職員一丸となって教育にあたって参りました。十分に指導できなかつた点もあつたかと思ひますが、お子様は立派に成長し、今日を迎えることができました。これも皆様のご理解とご協力があつてのことと感謝申し上げます。今後は、立派な社会人に成長されますよう、心からお祈り申し上げます。

結びに、この三年間、本校教育の推進に深いご理解とご協力をいただきました、地域の皆様に心から感謝申し上げますと、ともに、卒業生の皆さんのが、限りない前途を祝福して、式辞と致します。

祝辭

PTA会長 三谷 真

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。  
無事にこの中学校を巣立ち、羽ばたいていくこの日を迎えら



れましたのも、日々熱心にご指導下さった先生方のおかげと、深く感謝しております。また、日頃から温かく見守って下さっている地域の皆様にも多数ご臨席賜り、共にお祝い頂きますこと、まことにありがとうございます。

さて、私からは皆さんに自分自身の経験を踏まえ、「好機逸すべからず」という言葉をお話させて頂きます。「好機逸すべからず」とは、良い機会は逃してはならない

いという事です。今回は運が悪かった。巡ってこなかつた。それは時に事実かもしれません、この台詞を言つていいのは十分な努力と準備をした人だけが言える事です。日頃からそのチャンスを掴み取る為の見極める眼と、その道を進むための必要最低限な能力を付けておくことが大切なのです。これが人生をしっかりと進んでいく方法だと思います。折角の好機が訪れても、それを逃してしまうようでは意味がありません。こうした好機というのは殆どの場合、過ぎ去つてからではもう遅く、実力や準備なくして巡つて来た好機をつかみ取るのは困難という点を忘れてはならないと思います。

少し私自身の話をしていきますと、私の職業はピアノ調律師というピアノのメンテナンスをしていますが、日々仕事をする中で大事にしている事があります。

一つは、ピアノの状態を最大限活かすために毎日コツコツと技術の練習をしているということ。これは、様々な演奏者の要望に応えられるよう日頃から普段使わない技術を含めて勉強しています。

もう一つは、演奏する人が求めていることを正しく理解するように努めていること。相手が何を伝えたいのかわからないと、求めていることに応じてあげることが出来ないからです。

希七王  
羽曾部忠  
二二の星のかがやき  
がらかうよう  
ちがうよう  
のねの色や形が  
わしたらのむね  
からはばたこう  
とすらゆめはち  
かう  
そんにたくさ

なんのゆめに包ま  
れて地球はミズ  
ボン玉のように  
光っているだらう

準備を怠っていい理由にはならないと思います。「好機を逃してはならない、後悔したときにはもう遅い。」

卒業生の皆さんには春から、新たな環境の中で色々な経験を積んで行くことでしょう。自分自身の目標や夢をしっかりと持ち、チャンスを自分の力で掴み取って下さい。時には人に傷つけられ悩む事もありますが、その傷を癒してくれるのは人の優しさです。お互いを思いやり、助け合えるような素敵な友人を、たくさん作って下さい。そして、この地に多くの仲間がいる事、お世話になった先生方、大切な家族、地域の皆様がいる事を忘れないで下さい。

皆さんの未来に幸多かれと願い、挨拶とさせて頂きます。本日は誠におめでとうございます。

